

# 保育北九州

令和8年5月1日  
発行 (一社)北九州市保育所連盟  
〒805-0019  
北九州市八幡東区中央2丁目1-1  
(レインボープラザ5F)  
電話(093)661-2153番  
発行人 林 田 猛 利  
編集人 西 敏 昭

2026 **221**



〈提供 小倉南支部〉

## 「春だいき」

(5歳児の作品)

表紙 .....	1
第 68 回 全国私立保育研究大会 北九州大会にあたって .....	2～3
仲間たち .....	4～5
研修・一期一会 .....	6
支部近況 .....	7
雑感・編集後記 .....	8

# 第68回 全国私立保育研究大会 北九州大会にあたって



保育者一人一人の  
「Restart」が未来を変える  
(公社)北九州市私立保育連盟

会長 山本 博文

「第68回 全国私立保育研究大会 北九州大会」の開催がよいよ間近となり、平成6年以来、実に32年ぶりに全国の皆さまをこの北九州市にお迎えします。1,500名の参加予定に対し2,000名を超える参加のお申し込みをいただいております、全国から寄せられる大きな期待を感じております。地元北九州市の各園の皆さまにも温かいご協力を賜りながら、参加者の皆さまを真心込めてお迎えできるように、準備を進めているところです。

今回の大会テーマは「Restart ほいくで未来はかわるっちゃ! くきつと見つける私たちにできること」Kitakyushu Action!。このテーマには、社会が大きく変化する今だからこそ、一人一人の保育者がこれ

までの歩みを尊重しつつ、改めて自らの保育を見つめ直し、新たなスタートラインに立ちとうという思いを込めています。また、「ほいくで未来はかわるっちゃ!」という北九州らしい表現には、一人一人の保育者の力が社会を変えたいという確かな信念が込められています。保育の力は、子どもと家庭、地域社会の未来をより豊かにしていく。まさに、保育者こそが未来をつくる存在なのだ

と、今回の大会を通して強く発信したいと思っています。とりわけ今回は、保育者自身にスポットを当て、日々の実践の中心にいる存在であることを力強く後押しする大会にしたいと考えています。現代の保育は、子どもや家庭を取り巻く環境の多様化や少子化の進行、地域コミュニティの変容な

ど、さまざまな要素が複雑に絡み合う中で進んでいます。その最前線に立ち、毎日子どもたちのそばに寄り添い続けているのが保育者です。だからこそ、保育者自身が自らの実践を振り返り、気づきを共有し、励まし合い、そして学び合う場が必要だと強く感じています。本大会が、その原点に立ち返る機会になることを願っております。

北九州市は、人と人との温かなつながりを大切に育んできた街です。地域の力に支えられながら保育が発展してきた歴史があります。2026年5月、そんな北九州で本大会が開催されることには深い意味があると感じています。私たち北九州市保育所連盟・北九州市私立保育連盟・北九州市保育士会は、「子どもの最善の利益の保障」を理念に掲げ、保育者が共に学び合う保育を大切にしてまいりました。保育者の「自分らしさ」や「やってみたい」という思いが尊重され、子どもたちの育ちへとつながっていく。その連続性こそ

が、北九州の保育の豊かさを生む原動力です。

また、保育現場が直面する課題は、人材確保、働き方、子育て支援、地域連携、保育の質の継続的向上など、全国各地で共通するテーマが山積しています。本大会では、こうした課題についても真摯に向き合い、互いの知恵や実践を持ち寄り、より良い保育の未来を描くきっかけとなることを期待しています。

本大会の開催にあたり、地域、行政、関係団体をはじめ多くの方々から多大なるご協力をいただいております。人と人とのつながりが息づく北九州だからこそ生まれる温かさの中に、全国から参加される皆さまをお迎えできることを大変嬉しく思っております。

末尾になりますが、保育者一人一人が主役となり、「Restart 未来を変える一歩」を踏み出す大会となりますよう、心から願っております。



## 心ひとつに、北九州から未来へ Kitakyushu Action!

大会実行委員長 橋原 義晃

北九州市で全国大会を開催する事が決定して、実行委員長に任命された時の衝撃は今でも鮮明に覚えています。遡ること2年前の出来事です。

前回北九州市で開催した全国大会は、平成6年です。実に32年振りとなります。また、その時の実行委員長を務められたのが北九州市の保育の礎を築かれ、元全国私立保育園連盟会長を務められた西村良樹先生ということもあり、プレッシャーに押しつぶされそうな日々を過ごしたこともありました。

ただ正式にお引き受けをさせて頂いてからは、持ち前の「やるべきは全力で一生懸命やる」の精神で走りぬくことを決意しました。

北九州大会会長である山本博文先生を中心に実行委員会を立ち上げ、まず今大会テーマである「Restart ほいくで未来はかわるつちや! くきつと見つける私たちにできること」 Kitakyushu

Action!」が誕生しました。その後、役員の方と定期的に全国保育園で開催される実行委員会や、地元での各種会議、また全国各地で開催されるありとあらゆる研修会や会場にてアピール行脚の日々が始まりました。

色々な場所でアピールをさせて頂く中、華やかな懇親会場だけでなく、厳粛な研修会の合間や全国総会時の議場等様々な場面で行ってききました。大会役員の先生方に支えられ、どの会場でもしっかりと「北九州大会」をアピールしてきた事はこの紙面上でも自信を持って報告致します。改めて北九州市のこと、北九州の保育魂を見つめ直す貴重な時間となりました。

そのような日々を過ごしていくうちに気付けば大会2か月前となりました(原稿執筆時)。

北九州市の園長先生方には様々な場面でのお力添えをいただき、1年前より定例施設長会時に大会

テーマである「Restart ほいくで未来はかわるつちや! くきつと見つける私たちにできること」 Kitakyushu Action!」のご唱和本当に有難うございました。毎回%を上げていく声を聞く度に気持ちが引き締まっていくのを実感しました。

さて、肝心の大会参加状況ですが、2月16日午前10時より受付が開始して、北九州市内の先生方には1次締切日である3月6日まで申込を待ち頂く体制でのスタートとなりました。開始初日に800名超の申込みがあり、締切日を持たずに定員である1,500名に達することが出来ました。その後全ての申込枠を開放して2次締切日の3月19日には2,100名を超える申し込みを頂きました。これも偏に皆様のご協力のおかげと感謝しています。本当に有難うございました。

最後に、最近心に響いた東井義雄さんの「心のスイッチ」という詩を紹介いたします。

人間の目は 不思議な目  
見ようという心がなかったら 見ても見えない

人間の耳は 不思議な耳  
聞こうという心がなかったら 聞いていても聞こえない  
頭もそうだ

はじめからよい頭 わるい頭の区別があるのではないようだ  
「よし やるぞ!」と  
心のスイッチが入ると

頭もすばらしいはたらきをしはじめる  
心のスイッチが 人間をつまらなく  
もし すばらしくもしていく

電灯のスイッチが 家の中を明るくもし 暗くもするように

めまぐるしく変化していく保育情勢の中、最も大事にされなければならぬのは子どもたちの未来であり、言葉にすることの出来ない声を代弁していくことだと思います。

さあ、目前に迫った北九州大会みんなで心のスイッチを入れて大会を盛り上げていきましょう。

**Kitakyushu Action!**

※アピールの様子をご覧ください!  
(飛騨高山大会バージョン)





今回は「関門海峡ミュージアム」を訪ね、門司港共創「広報・PR・イベント」責任者の末吉さんにお話を伺いました。

◆施設名  
関門海峡ミュージアム

**Q1 関門海峡ミュージアムの運営主体や設立経緯について**

① 関門海峡ミュージアムは、2003年にオープンし、今年で23年目を迎える施設です。運営主体である「門司港共創プロジェクトチーム共同事業体」は、北九州市を代表する観光地「門司港レトロ」の関門海峡ミュージアムを含めた9施設を一括管理・運営しています。当事業体は、株式会社朝日広告社・岡崎建工株式会社・株式会社イーストの3社

で構成しており、2023年から施設運営を開始しました。

**Q2 関門海峡ミュージアムの事業目的や内容について**

① 関門海峡ミュージアムは、「関門海峡をまるごと楽しむ体験型博物館」をコンセプトに、関門海峡の自然環境・歴史・文化を五感で学ぶことができる施設です。2003年に門司港レトロ地区の中核施設としてオープンし、2019年に一部リニューアルをしました。



海峡歴史回廊

**Q3 開館時間・入場料など**

① 【住所】福岡県北九州市門司区  
西海岸1-3-3

【営業時間】9時～17時  
【定休日】年5回不定休  
【入館料】

有料ゾーン：大人500円  
小・中学生200円

海峽子ども広場：1歳以上100円

【駐車場】

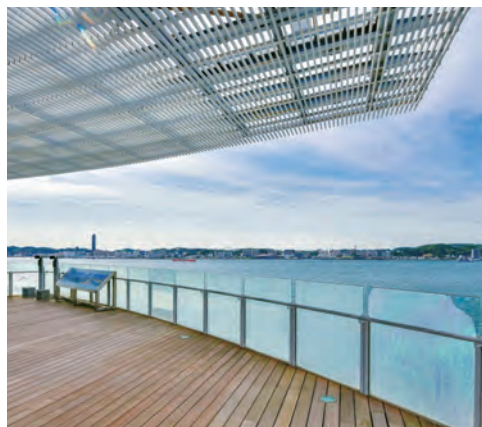
普通車2時間まで200円(1800台)  
大型バス1日1000円(20台)

**Q4 業種・職員数・仕事内容について**

① 当事業体では、施設クルー・設備スタッフ・警備スタッフ・清掃スタッフ・インフォメーションスタッフ・バックオフィススタッフなど含めて約90名で9施設を運営しています。施設を訪れていただく皆様のおもてなしはもちろんのこと、イベント企画や広報、施設の維持管理まで一貫して行っています。

**Q5 施設の特徴などあればお聞かせください**

① 船をイメージした建物をエレベーターで5階まで上がり、展望デッキから目の前に広がる関門海峡の景色を楽しめます。本州と九州、日本海と瀬戸内海の出会う地理と関門海峡を行き交う船を眺めることができます。4階には、豪華客船をイメージしたプロムナードデッキがあり、休憩をしながら



展望デッキ

ら、時間を忘れてくつろぐことができます。

有料展示ゾーンは、4階から2階まで吹き抜けの内部を緩やかな螺旋状に下りながら、国内最大級のセイルスクリンで門司港や関門海峡の歴史などの迫力ある映像を楽しめる「海峽アトリウム」、10名の人形作家の作品で関門海峡の歴史を伝える「海峽歴史回廊」、関門海峡の潮流などをインタラクティブ体験などで楽しみながら学べる「海峽体験ゾーン」があります。

また「海峽レトロ通り」では、明治から大正・昭和の頃、国際貿易港として栄えた当時の門司港にタイムスリップしたかのような街並みと活気が再現されています。朝から昼、夕方、夜と時間が移り変わるだけで

なく、耳をすませば人々の会話やバナナの叩き売りの調子も聞こえてきます。他にも施設内には、小さな子どもも楽しめる「海峡こども広場」があります。高さ10mの青いスロープネット遊具空間は、1歳以上から利用ができ、子どもたちに大人気の場所となっています。



プロムナードデッキ

**Q6** スタッフの方の苦労話やエピソード

**A** 関門海峡ミュージアムは、館内が広い施設なので、1日イベントをしていると館内だけで1万5千歩ほど歩いていることもあります。ま

た、バックヤードエリアも構造が複雑で同じような扉も複数あるため、バックヤード内で迷子になってしまうこともしばしば…。

**Q7** これからの未来を担う子どもたちに、関門海峡ミュージアムでの体験をどのように活かして欲しいですか

**A** 関門海峡ミュージアムでの体験を通じて、子どもたちには単なる「知識の習得」を超えた、3つの力を育ててほしいと願っています。

1. 歴史の「地続き」を感じ、想像する力

大型スクリーンやアート作品で見る関門海峡の歴史は、遠い昔の物語



関門海峡ミュージアム 外観

2. 「つながり」を見つけ、世界を広げる視点

関門海峡は、本州と九州、そして日本と世界を結ぶ「節」のような場所です。ミュージアムでの体験を通じて、モノや人が行き交うことで文化が生まれ、経済が発展していく「つながり」の仕組みに気づいてほしいです。

3. 地域への誇りと「継承」の意識

「自分たちの住む場所には、こんなに面白い物語があるんだ」という発見は、自信と郷土愛に繋がります。「自分たちの手で未来の街をどう彩るか」を考えるきっかけにしてほしいと願っています。

**Q8** これからのイベントの予定や企画

**A** 最新スポットとしては、観光×防災をテーマに国内唯一の体感型防災コンテンツ「液状化通路浸水歩行体験」も常設しています。この体験では、浸水時避難の危険性を疑似体験することができます。日曜日・

祝日開催、1人500円/回で体験することが可能です。

また、この春の企画展として、伝説のマンガ家 陸奥A子の「カワイイ!&ふしぎの国のアリス」展を開催します。

【会 期】2026年4月24日(金) ~ 5月10日(日)

【休館日】なし。ただし天候等の状況により臨時休館になる場合があります。

【開館時間】9時~17時 (最終入館16時30分)

【入館料】大人500円・小中学生200円

寄 付

(一社) 北九州市保育所連盟  
(公社) 北九州市私立保育連盟  
北九州市保育士会

へご寄付

光保育園 園長 江田 正俊  
様より保育事業発展のためご厚志を頂戴いたしましたので、ご報告申し上げます。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきますとともに心から感謝申し上げます。

# 研修・一期一会

## 2025年度 全国教育・保育 研究大会(東京大会)



今年度は、これまで別々に開催されていた全国保育協議会と全国保育士会の全国大会が一本化され、初めて「全国教育・保育研究大会」として実施された。そのような新たな形での研修に参加できたことは、大変貴重な機会であった。

今回の研修を通して、保育所や子育て支援センターの役割は、子どもへの直接的な援助だけでなく、家庭全体を支える存在であることを改めて学んだ。現代は共働き世帯の増加や地域とのつながりの希薄化から、保護者が孤立しやすくなり、育児の不安や負担を抱え込む家庭も少なくない。そのような中で、保育者が「いつでも話を聞いてもらえる存在」「困ったときに思い出しもらえる存在」であることの意義は大きく、その役割は一層重要になっている。

『認定こども園・保育所における保護

者支援、地域における子育て支援』の研修では、上野温子氏・岡田美笛氏、福井加枝氏・下八川さおり氏による二つの発表があった。両者に共通していたのは、まずは「安心して過ごせる居場所づくり」が何より大切であるという点である。支援は一度きりで完結するものではなく、「また来たい」「ここなら安心できる」と感じてもらえる関係づくりが基盤になるということを学んだ。そのためには、保護者の言葉の背景や生活状況を丁寧に捉え、一方的な助言ではなく、共に考える姿勢が求められる。利用者の気持ちに寄り添い、小さな変化に気づきながら関係を築いていく姿勢は、どの場においても支援の基盤となる。

さらに、「利用者や保護者が求めている支援を的確に捉える力」を高めることも、今後の課題である。そのためには、一人一人の背景を理解しようとする姿勢とともに、職員間での情報共有や振り返りを大切にし、継続的に学び続けることが必要である。必要に応じて地域の公的資源へとつなぐ視点を持ち、園内だけで抱え込まず、地域全体で子育てを支える意識が重要であると感じた。

今後は、日々の送迎時の会話や何気ないやりとりを大切にし、小さな変化にも気づける保育者でありたい。そして、子どもの最善の利益を中心に据えながら、家庭と園、地域を結ぶ架け橋となれるよ

う、自ら学び続け、実践を振り返りながら成長していきたい。

認定こども園リアンはなお保育園  
武谷 玲奈

## 令和7年度 保育所(園)職員総合研修大会

令和8年2月4日(水)、「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現」をめざして、という主題の下、令和7年度「保育所(園)職員総合研修大会」が福岡市で開催され、参加させていただきました。

式典では、福岡県副知事が来られ挨拶をされました。福岡県として、ワンヘルス教育の推進を行っており、全国に先駆けて幼児向けの絵本を各施設に配布する事「地域限定保育士」の全国初めての試験実施に認定さ

れ、来年度の実施に向けて準備を進めている事などの行政報告がありました。また、田川市の保育園で起きた、複数の保育士による虐待についても触れ、すべての子どもを安心して預ける事のできる保育体制強化を宣言されていました。

実践発表では、光沢寺保育園(北九州



市)、福岡市立那珂珂保育所(福岡市)、とまりの森こども園(福岡県)の主任保育士、調理業務員、保育教諭の方々から保育実践を発表されました。光沢寺保育園の主任保育士、岩尾先生からは「子育て」保護者と共に子どもの育ちを支える」という主題で発表がありました。台言葉は「一緒に育てましょう」というフレーズがとて印象に残る発表で、主任保育士として保育園の循環を支え、声をつなぎ、対話で不安を安心へと変える実践を知り、とても参考になりました。

記念講演では、こども家庭庁成育基盤企画課、教育・保育専門官の馬場耕一郎先生から、「こども家庭庁の政策について」という主題でお話がありました。はじめに少子高齢化に対する分析があり、結婚しない事や再婚などの選択肢も肯定的に捉えていると語られていました。「こどもまんなか」というスローガンを保育園で使っていく事が、こどもま

んなか社会実現の第一歩で、是非保育園で使ってほしいと説明されました。こども基本法やこども大綱について丁寧に解説していただき、皆さんが日常行っていることではないんです。保育士は人を愛する専門職。こども家庭庁はみなさんの味方です」という言葉をいただきました。保育士と言う事に誇りを持ち、日々子どもたちと笑顔で関わり続けていきたいと思いました。

杉の実保育園 金子 和弘



## 新年交流会

令和8年1月9日(金)ノートルダム北九州にて若松支部新年交流会が行われました。

北九州市若松区奥野静人区長、窪田浩治保健福祉担当部長、北九州市子ども家庭局子ども家庭部子ども施設企画課石松亨介認定管理担当課長をはじめ、多くの来賓の皆様にご臨席賜りました。

会の幕開けにあたり、橘原義晃支部長より新年の挨拶がありました。本年5月に開催を控えた第68回全国私立保育研究大会北九州大会のテーマ「Restart ほいくで未来はかわるっちゃ!」と「きつと見つける 私たちにできること」(Kitakyushu Action!)を参加者全員で力強く唱和しました。このスローガンに込められた熱い思いを再確認し、次世代を担う子どもたちのために「こどもみんなか社会」の実現に向け、皆で手を取り合って邁進していく決意を新たにしました。

続く第2部のアトラクションでは、マジックエンターテイナーまんぼう氏と変面師・マジシャンカズヤ氏による「新春マジックショー」が披露されました。軽快なリズムに乗せた巧みな演出に加え、観客を巻き込んだ和やかなやりとり、会場は終始大きな笑顔と拍手に包まれました。特に、一瞬で面が切り替わる伝統芸能「変面」の華やかで洗練されたパフォーマンスは圧巻でした。

各園の保育士委員が中心となり行われた、くじ引きやじゃんけん大会では、自分の番号が呼ばれるのを今か今かと待つ緊張感があり、豪華賞品を懸けた園対抗じゃんけんでは、応援や歓喜の声が会場に響き渡るなど、大いに盛り上がりました。また、美味しい料理に舌鼓を打ちながら、ゆっくりと会話を楽しみ親睦を深めることができ、実り多い新年交流会となりました。

## 全体研修会

令和7年10月30日(木)に古前市民センターにおいて「積み木」の研修会を開催しました。講師には、こどものとも福岡の社長 府後裕一郎氏及び黒澤悟氏をお招きしました。初めに積木の種類や比率、積木遊

びを通して子どもたちに育まれる力についての講義をいただきました。その後、グループに分かれてカプラーを使い、球体づくりに挑戦しました。説明を聞きながらの作業でしたが、積む位置や角度、一段に使う枚数によって形が変化するため、楕円形になつてしまひ、球体を作ることはとても難しかったです。

最後は絵本こどものとも12月号「せんごのいし」の世界を積木で表現するという課題に取り組みました。

黒澤氏による絵本の読み聞かせを聞き、想像力をふくらませてから制作を開始しました。グループのメンバーで「どの場面を再現するか」を話し合い、色板や様々な形や色の「グランプット」を組み合わせて、素敵な作品を完成することができました。

同じ目標に向かって話し合い、役割分担をするなど協力しながら取り組む中で、参加者同士の親睦も深まったようです。また、完成した作品を嬉しそうに眺めたり、写真を撮ったりする姿から達成感が伝わってきました。

職員自身が子どもと同じように体験を通して学ぶことで、多くの気付きが得られた研修となりました。これからも職員の皆さんのニーズ

に応じた実りある研修を企画していきたいと思ひます。

## 給食部会

若松支部では年に3回「給食部会」を開催しています。

部会では給食献立検討会の報告をはじめ、各園における調理業務の現状や食育の取り組みについてなどの情報交換を行っています。

戸畑支部と若松支部は保育所(園)や認定こども園の数が少ないため「食事に関する研究研修会」での調理実習は両支部で交代しながら実施しています。実習を担当する年には、設定された課題に基づいた美味しい献立を作成するために知恵を出し合ったり、試食会を行ったりしています。部会で共有された旬の食材や価格、食育の取り組みなどの情報は、自園に持ち帰り施設長や職員に共有して業務に活かしています。

同じ業務に携わる仲間同士だからこそ、悩みや疑問を気軽に相談し、適切なアドバイスを送り合えることができています。また、他園の先生方とのつながりを深める良い機会ともなっています。



## 「動物園に行きたいな」

(4歳児の作品)

### 雑感新聞

目覚ましが鳴る。起床：朝食の用意・孫の弁当作り。コーヒーを飲みながら朝刊を読む。雨の日はビニール袋に入っている。記事をきちんと読まなければと思いつつ、ペラペラと紙面を捲る。まず、一面裏返して番組、今日の目当てのドラマは…録画しているかなと、していた。天気は？良し。そこから記事へと入っていく。

三面↓地方版↓サラサラと捲る。事故・事件痛ましい記事ばかり。心痛む。何故、どうしてと思いつつ読み進めていく。

特別に読書が好きと言う訳でもないが、よく本を読んだものだ。思い出すのは夏休みの宿題で「読書感想文」なるものを書かされた。今となっては(書かされた)という表現ではない。あれは…何だったんだろう？何をどのように書いたのか、取りあえず、宿題をこなしていた。今、なんとなくだと思いつく。先生も何かしらの思惑があったのではと思うこの頃。個人的にはまったのは、ミステリー、「推理小説」そのせいかテレビも刑事ものが好きで見ている。

時代は進み、スマホ時代、デジタルと言う代物が出てきた。目はかすみ、字を追うが行を外す。内容すらわからなくなってくる。今読んだよね：読んだ。ついていけない。紙面をペラペラと捲りながらも目

に留まるのが、特集記事痛ましい内容、目にしたくない記事等々、様々だ。決して目を背けてはいけない内容と分かっているがキツイ。だが、受け止め現実から目を反らすことのない出来事案が多々ある。向き合わなくては。

いつも思う。私の保育士生活の中で、新聞の記事や情報はとても勉強となった。

現在は、時代の変化についていけず、戸惑いも多く、脳みそが揺ら揺らしてくる。定まらなくなっているのが現状だ。新しいものを取り入れながらも、残していくもの、根底にあるものは変えず、変えてはいけなものを、しっかりと見極めて行かなくてはと感じる。

時代の流れと共にいろんなものが変わってきたが、保育・そして子どもたちへの思いは、変わってはいけなしいし、変えてはいけなしいと強く思う。長い保育生活の中で、楽しい事、子どもたちと一緒に泣いたり笑ったりと、たくさんさんの活力をもらった。私の大切な「宝物」だ。

出勤の時間になりました。今日も一日心穏やかに。行ってきます。

認定こども園さんろくこどもえん

園長 首藤 恵子

## 編集後記 — 初心忘るべからず —

初心忘るべからずという言葉は「物事に慣れてくると慢心してしまいがちであるが、はじめたときの新鮮で謙虚な気持ちや志を忘れてはいけない」とのこと、藤井聡太 竜王・名人は日本の将棋棋士である。2016年、史上最年少(14歳2ヶ月)で4段昇段(プロ入り)を果たした。5歳より将棋の手ほどきを祖父母から受け、囲碁と将棋のルールを教えられて将棋の世界に進むようになった。藤井聡太 竜王・名人の活躍により将棋ブームが起こり、「藤井フィーバー」とまで言われた。

八冠(竜王・名人・叡王・王位・王座・棋聖・棋王・王将)とタイトルを独占していたが、現在は六冠(竜王・名人・王位・棋聖・棋王・王将)のタイトルを保持している。

小学校の頃、近所の散髪屋さんに行くとお店の中で将棋や囲碁を指している光景を目にしていた。興味本位で覗いていると、駒や碁石が動く様子を熱心に見ていた事を思い出す。遊び半分にルールも知らずいつの

間にか将棋で山を作り、一つずつ山が壊れないように取って行く遊びをやっていた。又、囲碁では友達と五目並べて遊んでいた記憶がある。

藤井聡太 竜王・名人は祖父との将棋でまだ読み書きができない5歳の時期にルールや符号を頼りに読み進めて1年後には完全に理解し記憶していたのである。その後祖父も藤井聡太 竜王・名人には歯が立たなくなっていた。又、最年少棋士記録を14歳5ヶ月で62年ぶりに更新した。

しかし、近年は圧倒的な力を誇ってきたが、これまでのタイトル戦とは違う挑戦者が王手をかけて、カド番に追い込まれていたが、正確な読みで寄せきり、最後は王者の底力を見せつけ、六冠を死守した。今までの経験と初心を忘れずに「面白い将棋を」との表現で指し方に工夫を凝らすようになった。これからも不屈の精神でチャレンジは続く。

保育も経験年数をどれほど積もうとも、いつも子どもたちと関わる時初心を忘れないようにしたいものです。初心であればこそ気づく事があるのですから。

「保育北九州」編集委員長 西 敏昭